

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11092	2	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	慢性期看護援助論 (Chronic Illness and Nursing Care)				
担当教員名	○谷本真理子/櫻井智穂子/山崎千寿子 /筒井千春				
授業の概要及び到達目標					
<p>[授業概要]</p> <p>本科目の受講によって学生は、健康障害が慢性的・長期的に経過する対象の疾患や機能障害の特徴と病みの軌跡を理解し、対象の生命維持、疾患管理、日常生活行動の自立、社会生活の維持、QOLの維持向上に必要な看護を展開するための基本的な知識・技術を習得する。講義は、生活習慣病、がん、難病患者の看護を例に挙げて展開する。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①健康障害が慢性的・長期的経過をたどる患者のセルフケア、リハビリテーションを支える看護のあり方、援助方法を理解する。</p> <p>②健康障害が慢性的・長期的経過をたどる患者の機能障害の捉え方と、必要な看護の導き方を理解する。</p> <p>③慢性疾患をもって生きる人の包括的理解にむけた病みの軌跡理論の理解とその活用について理解できる。</p> <p>④長期にわたり患者の療養生活を支える継続支援の方法（外来看護・退院支援）について理解する。</p>					
準備学習等					
<p>講義の事前課題がでているものについては、かならず取り組んでから授業に臨むこと。事前課題に関連する病態生理学、治療学総論、疾病治療論Ⅰ～Ⅲの履修内容は、復習しておくこと。</p> <p>予習・復習に必要な時間は、科目全体で60時間に相当します。</p>					
成績評価の方法	<p>評価：レポート 2種 計30点 試験 70点（42点未満は、不合格） 授業の3分の1以上の欠席、レポート2種未提出者は試験受験資格なし</p>				
テキスト	<p>「糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版」（日本糖尿病協会・文光堂） 「リハビリテーション看護」（酒井郁子 金城利雄編：南江堂）</p>				

参考図書	疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで指定されたテキスト※ 各講義で別途提示する
備考	<p>本科目の単位取得は、急性期・慢性期看護学実習の前提条件になっている。各教員のオフィスアワーについては看護学科「オフィスアワー」の項を参照ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。</li> <li>・レポートは返却します。</li> </ul>
授 業 計 画	
<p><b>I. 慢性疾患看護概論</b></p> <p>第1回：導入：慢性期看護援助論の目的、科目構成 慢性疾患の動向とケアニーズ (谷本)</p> <p>第2回：慢性疾患を持つ人の病みの軌跡と援助課題 (谷本)</p> <p>第3回：慢性疾患患者のセルフケア支援 (谷本)</p> <p>第4回：リハビリテーション看護概論 (山崎)</p> <p>第5回：がん看護概論 (櫻井)</p> <p><b>II. 機能障害をもつ慢性疾患患者の看護</b></p> <p>第6回：セルフケアを必要とする患者の看護 ① (筒井)</p> <p>第7回：セルフケアを必要とする患者の看護 ② (谷本)</p> <p>第8回：リハビリテーションを必要とする患者の看護 ① (山崎)</p> <p>第9回：リハビリテーションを必要とする患者の看護 ② (山崎)</p> <p>第10回：難病患者の理解と看護 (山崎)</p> <p>第11回：維持期がん患者のニーズと看護 ① (櫻井)</p> <p>第12回：維持期がん患者のニーズと看護 ② (櫻井)</p> <p><b>III. 慢性疾患看護におけるケア技術</b></p> <p>第13回：慢性疾患と共に生きる人へのセルフケア支援技術 (谷本)</p> <p>第14回：慢性疾患患者の地域における継続支援 (谷本)</p> <p>第15回：慢性疾患患者のケースマネジメント (筒井・谷本)</p>	